



<緑陰広場の水路整備>



## Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	大台ヶ原ハイキングに参加して	8
Monthly Repo ならやま	2	アイドルと名所の誕生	9
里山の今(エコ・景観)	3	私のアウトドアライフ	10
奈良公園自然観察会レポ	4	Galleryならやま	11
朝日親と子の自然環境教室レポ	5	行事案内	12
佐保台小学校稲刈りレポ	6	幹事会報告・編集後記	13
大台ヶ原ハイキングレポ	7		

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

晩秋を迎えて、ならやまの木々はそれぞれ冬支度で美しい彩を見せてくれている。人はベースキャンプの焚火の周りに集まり、炎の暖かさに仲間との会話が弾む。お昼には熱い味噌汁をすすりながら、時おり流れる「ならやま音頭」にしばし耳を貸す。実りの秋らしく農作物の収穫も多く、ほのぼのの市場も賑わっている。コロナ禍はブレークスルーが心配されているが、とりあえず小康状態で、一定の感染対策を講じつつも、ならやまの日常が戻ってきている。

薪置場から第2駐車場にかけての水路の整備、カエデなどを植樹するための土地整備も進んだ。本格的な植樹作業、シイタケ椀づくり、竹林の整備、水路の整備、次の季節に向けての耕耘や種まき、新春を迎えるための準備など、作業は山積みだ。先日、どこかの草刈りで、刈払い機による太もも切傷で命を落とすような事故の報道があった。他人ごとではない。忙しくなる中で、改めて安全には十分に注意しなければと思う。

1年の締めくくりの月、笑顔で新しい年が迎えられよう、無理のない計画的な取り組みに心がけたい。

## 12月の活動特記事項

協働活動：12月2日 竹林整備、9日 カエデなどの植樹、16日 アダプトプログラム

- ① 竹林の整備
- ② 学びの森周辺へのカエデなどの植樹
- ③ 東池の水抜き（1月補修予定）

## 12月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	カエデなどの植樹、迎春準備（干支工作、門松、倉庫整備）、薪割り ユート：アカマツの森 松の剪定
エコファーム	芋煮会、各種野菜収穫、畑整備（ナス跡、里芋跡）、倉庫整備
景観	竹林整備、倉庫整備 ビオ：水路・池・木道の補修・整備、東池の水抜き、生物調査 花：山野草園の花の移植、草引き
パトロール	新1～3コースパトロール、観察路整備（丸太階段補修その他）、倉庫整備 メンテ：BC前の階段更新
果樹	キウイ棚設置工事、キウイ苗植え付け、コンポストへの刈草詰め、 果樹新規植え付け、ブルーベリーと梅の剪定、寒肥施肥

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報（NHKTV 奈良 19時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日とも同予報であれば中止



**Monthly Repo. ならやま**

富井 忠雄

**10月21日(木) 活動 晴 68名**

朝から佐保台小学校の児童 20 数名と協働で稲刈りを実施、奈良テレビによる取材もあった。協働活動として第2駐車場の浸水対策としてバラスを入れた。

里山 G は伐倒材の搬出、チップ作業、薪割りを、エコ G は稲刈り対応の後、24 日開催予定の朝日親と子の自然環境教室の準備をした。景観 G は彩の森、緑陰広場、山野草園の草刈り、花班は花なすの撤去、なでしこの移植、花壇の草刈り、ビオ班は近大生とのタナゴ池定期調査、蓮池の補修、ザリガニの駆除を行った。パトロール G は観察路の笹刈り、倒木処理、サイクリングロード側植物保護柵の補修と草刈り、果樹 G は実りの森の除草、キウイの苗床作り、また、ユートピアは松山平の整備を行った。

**10月24日(日) 朝日親と子の自然環境教室**

好天に恵まれ、

参加者：子供・保護者 41 名・会員 20 名

**10月28日(木) 活動 晴 72名**

秋晴れて暖かく、朝から協働活動で芋掘りを実施。安全対策として、看板(車に注意)設置の報告と名札裏の防災カードへの緊急連絡先の記入が再徹底された。

午後、京都大学の徳地先生ほか 2 名が来訪。

里山 G はチップ作業、薪割り、下草刈り、伐倒木の整理、エコ G は芋ほりの後、ナスの撤収、えんどう豆の始末、種まきを実施、景観 G は東池・花壇側道・テント周り・JR ガード下の草刈り、花班は自転車道沿い花壇の草取りと水やり、ビオ班は東池の水抜き、北側水田東側の水路掃除を行った。パトロール G は観察路・保護植物柵内の草刈りと A 地区の点検、果樹 G は、実りの森の鹿除けフェンスの仮設置を行った。

**11月4日(木) 活動 晴 76名**

会長から緑綬褒章受章の報告、学びの森のモニタリングと展望台の名称募集について説明があった。また、花班からメンバーがごく少数になったことに伴う活動の見直しについての説明と協力依頼があった。

協働活動として、東池の泥上げを実施。佐保台小学校の 29 名を迎えて稲の脱穀を行った。

里山 G はチップ作業、薪割りのほか、景観 G と協力して、佐保自然の森と実りの森の竹林の調査・整備、ビオ班は西池の調査と周辺樹木の



の手入れ、花班はサイクリング道路沿い花壇の整備を行った。

パトロール G は希少植物保護研修と数珠玉植栽地の整備、果樹 G は実りの森除草、鹿除けフェンスの設置を行った。

**11月11日(木) 活動は雨の為中止 40名**

前日の天気予報では降水確率 30%だったが、あいにくの雨で全体活動は急遽中止。それぞれ自主活動を行った。

第一生命奈良支社長ほか 1 名が来訪、緑の環境プラン大賞でのコミュニティ賞受賞お祝いの挨拶を受けた。

**11月18日(木) 活動 晴 72名 実習生 1名**

業者による学びの森、第2駐車場周辺の水路掘削と土地整備を実施。

里山 G はコナラの伐倒と薪割り、エコ G は、玉葱の植付け、大根などの収穫、景観 G は佐保自然の森の竹林整備、花班はなでしこの周辺の草取り、ビオ班は、西池水生生物調査と周辺の整備、パトロール G は観察路パトロール、果樹 G はキウイ苗床の排水溝設置、ゆずの収穫、ユートピアクラブはアカマツの森の整備を行った。

エコグループ



景観グループ

\*奈良のため池

青木 芳一

ならやまの西地区にある水田に、愛称が付いています。北の水田を「はぐくみ」、南の水田を「未来っこ」と名づけました。毎年佐保台小学校の5年生が、田植え、稲刈り、脱穀の体験学習に来ます。

県の農地面積の約70%を占める大和平野は、年間降水量が少なく、加えて大きな川や湖もないことから、稲作と結びついて多くのため池が作られました。県内各地に点在する大小のため池は、約6500個(1999年)を数え、周囲の田畑と調和した日本の原風景となっています。

大和平野のため池の多くは「皿池」と呼ばれ、四方を堤で囲んだ池で、より上流から引水して貯える型式です。耕地を潰して造られたため池は、大和平野の水不足が深刻であったことを物語っています。

現在では、周辺に多くの住宅が建てられ、ため池が埋め立てられている地域もあります。また、耕作農地の減少により、農業利用の必要性がなくなるため池もあります。

しかし、ため池は、農業や治水の機能に加えて、憩いやレクリエーションの場を提供し、歴史・伝承の舞台となるなど、さまざまに多面的な機能を有しています。

平城宮跡の北側にあり、奈良市最大級のため池の水上市(みずかみいけ・約14ha)があります。「日本書紀」では約2000年前の垂仁紀に築堤された「狭城池(さきいけ)」ではないかとされています。緑が多く「奈良歴史の道」があり散策に最適です。また、野鳥の宝庫でバードウォッチングが楽しめます。

この貴重なため池は、奈良らしい自然豊かな美しい景観を演出し、奈良の大きな魅力として地域の誇りとしたいものです。

\*秋のならやまめぐり

羽尻 嵩

ラジオ体操の後、みんなの活動を見て回った。畑では、サツマイモが鹿の被害を受けたことを萱野さんから聞く。

その後、小川の横を通り、ポンプで東池の水抜きをしていた田中さんに会う。“池の泥は畑の肥料になる”とのこと。

薪小屋の前で、坂東さんは、“ここの薪は全部予約済みになっている”とのこと。

学びの森を通り里山に入る。植樹したコナラは植えてから6年ぐらい経つ。里山の作業している大澤さんに“あと20年ぐらいで薪として使えるようになるね”と言うと、“その時にはおれらはいないよ”と返ってきた。



ここから山道に入る。

「鳥観の丘」に出たが、古木や笹の生い茂る道に入り、道に迷ってしまった。幸い、山道の整備をしているパトロールの小島さんや守口さんの案内でなんとか外に出ることができた。

「実りの森」は原野を切り開いた場所だが、今は畑も広がって、いろんな果物が採れるが、近年、たくさんの苗木が鹿に食べられているという。



(鹿よけのワイヤー張り)

草刈り部隊の活動は活動の全分野に及

ぶが、近年は平らな場所は人手不足を自走式草刈機がカバーしてくれるという。今後も機械のお世話になるが、それらのための助成金の手続きも含め、事務の仕事もふえてきた。

「自然との共生」と聞こえはいいが、強欲な人間と自然との共生は難しいものだ。

自然教室だより

秋の奈良公園・自然観察会報告

辻本 信一

10月行事として予定されていた秋の奈良公園・自然観察会は雨天により、11月8日(月)に延期され実施されました。とはいえ1週間前までは大荒れの予報にハラハラ・ドキドキでしたが、皆さまの熱意にほだされたのか天気予報の雨マークも前日にはどこへやら、無事開催されることになりました。当日の参加者は15名。

定刻の9時ちょうど、年内最後となる田代貢先生のご案内による観察会のはじまりです。いつもながら解説用の資料もたくさんお持ちいた



だき、今回、参加者に配布された資料だけでもA4、B4それぞれ2頁と盛りだくさん。近鉄奈良駅では、電車が地上を走っていた当時の写真もご披露頂きました。その後、東向き商店街中ほどより興福寺境内へ。急坂の途中にオシロイバナの黒い実と赤い花。実と言っても雌しべの子房からなる真果ではなく、ガクが変化した偽果。この辺は解説の絵と実物を見比べ納得。

参加者のオシロイバナの受粉を手助けする昆虫はとの質問に関しては、アベリア同様、外



来種に傾向がみられる(受粉を手助けする)ポリネーター不明の植物の一つとの答え。行き成りの高等な遣り取りに田代先生の意気込みが感じられ、思わず耳をそばだたせる参加者一同。

坂を上り切った北円堂の南側では、松の枝についた葉に注目。見慣れた針形の葉とは別に一般的なかたちの葉。正体は他の植物に寄生して

いる植物ながら、緑色をした自分でも光合成をおこなう半寄生(⇔全寄生)のヤドリギ、マツグミ。

野鳥のヒレンジャクなどがヤドリギの実を好み食すが、そのあとで種を含んだ粘り気のあるフンをするので、枝にとまる際には他の鳥に迷惑をかけない様(?)横並びにとまるとか。

本日は他にもヒノキの様な葉をしたヒノキ



バヤドリギやオオバヤドリギも観察しました。

次に先生の足が止まったのは青々とした葉をつけたスダジイの前。皆さん、落葉時期の前常緑樹の判定はどのようにしますか?との質問。植物は形(痕跡)を残しながら生きている。例えば、冬芽の芽鱗痕(がりんこん)。今年の枝の下には芽鱗痕が残り、その下は去年の枝ということになる。そこに葉が無ければ落葉樹、あれば常緑樹の見分けがつかます。この様にして夏場でも常緑樹かどうかの判定は可能です。(なるほど、納得)

今回の報告では、参加できなかった皆さまにも観察会の充実した中身を知って頂くため、紙面が足りないことを承知で、スタート時点からご講義いただいた内容をつぶさに網羅致しましたが、これでも時間にすれば約30分。この後にも配布資料以外の説明も入り项目的には40項目ほどになったでしょうか。途中休憩時間の分を多少延長し、12時20分前後にお開きとなりました。

今回の報告記事で観察会当日のお話内容全部に興味を持たれた方、もっと知りたいと思われた方、ご希望の方には当日の配布資料をお渡ししますので、辻本までご連絡ください。次回は、皆さまの目と耳で、是非とも、田代先生の説明と自然の魅力を堪能してください。

朝日親と子の自然環境教室 レポ

有元 康人

雨で順延になった、朝日親と子の自然環境教室のイベントは、10月24日、晴天の中開催されました。

児童14名、保護者19名、シニア自然大学校スタッフ8名、会員スタッフ20名の合計61名が参加しました。

朝9時集合でしたが、当会スタッフは早くから来て、田んぼや周辺のマムシの追い出し、会場等のカンバンや幟の設置、ヘルメットの準備等を行い、参加者を待ちました。



10時から、当イベント主催者のシニア自然大学校での開会式の進行、当会からは会長の挨拶や注意事項の説明などを行い、稲刈り体験に入りました。

11時からビオトープに集まり、鈴木さんから稲刈りの説明があり2班に分かれて稲刈りを行いました。

なれない鎌を持った子供たち、始めはぎこちない動作でしたが、すぐに慣れたのか見事に稲刈りが進んでいきました。

親御さんが設置した稲架への稲架掛けにも、子供たちは積極的に参加し、稲刈りの後半は子供たち主導で進行していました。

稲刈りは、予定時間を30分も早く終了。



12時頃から昼食、今回はコロナの影響で味噌汁、飲み物の提供はできませんでしたが、家族単位で持参の弁当を楽しんでいました。



13時から2グループに分かれ、里山体験、自然観察。ヘルメット着用して里山に入りました。

里山体験では、ブランコ、木登り、丸太渡りなど、日頃できない遊びを歓声を上げながら体験していました。

自然観察では、この里山の植生、里山の大切さとその保護と整備などの説明、マツボックリのけん玉作りなど、楽しんでいました。

最後に閉会式、各々の閉会の挨拶があり、参加者とシニア自然大学校からお礼の拍手をもらい、この日の活動を終了しました。

無事故でこのイベントが終了できたこと、喜んでいます。

# 未来っ子・稲刈り体験

◆◆◆佐保台小学校5年生◆◆◆

鈴木 経子

10月21日(木)、この秋一番の冷え込みとなりました。恒例の佐保台小学校5年生の水稻栽培体験学習・稲刈りの日。2009年6月7日に第1回が11名でのスタートでした。13年目の今年は26名と倍以上となりました。

田植えから約4カ月経過し、3本ずつ植えた稲株は20~30本に成長してくれました。

子どもたちがならやまの水田に到着する前に、エコグループの皆さんが、北側の「はぐくみ」水田のぬかるみ具合やマムシなどが潜んでいないか、竹の棒を持ち稲穂の露払いも兼ねて稲刈り前の点検に取り組みました。

その結果、子どもたちは西側から刈っていき、中間地点前後まで取り組むことにし、残った稲株は会員が刈り取ることにしました。

9時半過ぎに、いつも静かな里山に子どもたちの元気な声が響き、明るくなりました。

千載会長さんの歓迎のこたばに引き続き、子どもたちから、「宜しくお願いします」と大きな声での挨拶がありました。

実習前に、稲株の持ち方、鎌の使い方、稲束の括り方の説明を受け、13人ずつ2班に分かれて、まず1班が稲刈り、2班は稲を束ねる。これを交代しながら取り組むことになりました。

乾いている所では、初めて鎌を使ったのにしては、上手く刈り取れていました。しかし、少しぬかるんだ所では、おそろおそろ足を踏み入れながらの稲刈りは、なかなか難しい様子で、

しかも足を前へ進めようとして、抜けないので、そちらにも気が向き大変そうでした。それでも真剣に向き



合う姿は、本当に素晴らしいと感じました。子どもたちの中には、もっと体験したいという希望者がいたので、南側の「未来っ子」水田でも取り組んでもらいました。

次に稲束を紐で括るのも初めてで、細い紐に手こずる子もいました。

刈り取りが終わった後は、稲掛け体験です。稲束を竹竿に掛けようとする時、色々な稲束がありました。しっかりと結べているもの、持ち上げるとゆるゆるでバラバラになるもの、株元から20cmぐらいのところまで結んで欲しいのに、稲丈の半分ぐらいのところまで結んでいるものなど多種多様。無理もないよなあ。大人でもなかなか難しいのだから・・・。

今の子どもたちは、昔の人は広い田んぼを何日もかけて手で刈り取っていたことや、稲束を藁で括っていたこと、稲穂が乾いて脱穀ができると、田んぼに小屋のような形に稲束



を積み上げて保存したり、藁を編んでムシロを作ったり。そして、動力機械類が開発されていない時代には、どの農家でも役牛として牛を飼っていたこと、牛の主食は藁を細かく切り糠を混ぜ合わせたもので、年間では沢山の藁が必要だったことなど、藁は貴重なものだったのを勿論知るよしもないだろうなあ、色々なことを思い出した子どもたちの稲刈り体験でした。

奈良テレビの「ゆうドキッ」で放映され、数人の子どもたちが、生産者の皆さんなどへの感謝の気持ちを話していました。食事の前の「いただきます」には、深い意味が込められていることに思いを馳せてくれることでしょう。

今年も昨年に引き続き、給食の時にさよむらさき(紫黒米)入りのご飯を、全校児童が賞味することになり、佐保台小学校の特色ある活動として定着させていくとのことでした。

20周年記念

東大台、奥大和 | 泊研修会

福田 美伸

会の20周年記念行事として11月1日、2日  
総勢24名、一路大台ヶ原、奥大和へ。

標高1695mの日出ヶ岳に登るのであるから、  
平地と10度の気温差が考えられ、雨具の他、  
防寒具持参を事前に伝え、当然、雨天の計画も  
立てておりました。しかし、参加者の行いが大  
変良かったのか? 「東大台の天気は晴れ、無  
風、気温21度」 コロナ禍を吹き飛ばす、山  
登りには最高の天気になりました。山の天気は  
突然の変化もあるが、「備えあれば荷物になる」。



日出ヶ岳で

国道169号線に別れ、大台ヶ原駐車場まで  
の車窓からは樹木の紅葉があまりにも美しく  
全員が感動しました。

11時、日出ヶ岳山頂に  
向け出発(予定より30  
分遅れ)、40分ほどで到



着。富士山は見えませんでした。素晴らしい  
三重の海が一望できる山頂で昼食を。その後、  
正木ヶ原、尾鷲辻、牛石ヶ原、大蛇ヶ原の足が竦  
む断崖絶壁と紅葉が素晴らしく、心に残るロケ  
ーションでした。大蛇ヶ原をパスした2人と東  
大台一周コースをクリアしたのは計10人  
でした。山好きで元気な女性が多い証拠です。  
東大台は木道が整備されているが、シオカラ谷  
の登りは階段になっており、急登でなかなか大  
変でした。

4時30分、大台ヶ原山を後にホテルへ。た  
だ残念なのは、メインである最高のナメゴ谷へ  
行くことができなかったことです。上北山村役  
場への電話では中型バスは「進入可」の確認を

取っていましたが、バス会社はヘアピン、細い  
道での事故を恐れてか? 「行けません」と。  
素晴らしいナメゴ谷へ案内したかったです。

そして、夕食。二次会はコロナ禍で自粛され  
ていたこともあり、楽しく全員沢山飲みました。

2日目、ホテル9時出発。直ぐ近くにある丹  
生川上神社上社は、天武天皇が建立し、龍神、  
水神の神で絵馬発祥の神社でした。次に、落差



50mの見事な蜻  
蛉の滝へ行きま  
した。雄略天皇  
の伝説が伝わり、  
松尾芭蕉、本居

宣長など著名人が数多く訪れている歴史ある  
滝でした。春に  
は美しい山桜、  
もう一度訪れ  
てみませんか。  
そして、丹生川



上神社中社へ。神武天皇戦勝祈願したという伝  
承、天武天皇度々の吉野行幸跡地伝説もあり、  
歴史の重みを感じさせてくれました。七滝八壺、  
またしても残念! 細い道で滝のところでバス  
がユーターン不可能。駐車場から往復4km、  
山にも登り疲れているだろうから取りやめ  
になりました。少し早い昼食をふるさと村の河原  
でとりました。山にも登り、腹が減っているだ  
ろうから、弁当屋にはご飯の量三割アップで依  
頼しており、全員きれいに食べました。昼食後、  
天誅組終焉の地へ。1863年、倒幕の兵を挙げ、  
大和五条代官所を襲撃し、幕府方から追われ東  
吉野村で15人が戦死。その後、薩長同盟、王  
政復古、明治へと。村人は墓碑を建て現在に引  
き継がれています。最後に八咫鳥神社、神武天  
皇軍を熊野から大和へ道案内して勝利へと導  
いたという説話はあまりにも有名で、日本サッ  
カー協会のマークにもなっています。

天気に恵まれ、大きな事故もなく、楽しい研  
修会になり、最高で終了しました。

大台ヶ原  
野鳥観察記録

守口 誠

駐車場を11時に出発し、野鳥を探しながら日出ヶ岳に向かうが、鳴き声も無く見つかることが出来ない。頂上から正木ヶ原も収穫なしで諦めかけた時、牛石ヶ原の手前でカメラをかまえている鳥ガールに出会う。聞くとヒガラとのことだが、我グループの大声で逃げてしまったようだ。本当にごめんなさい。大蛇ヶ原手前でグループから離れ、一足先にシオカラ谷に向かう。静かになったので野鳥に出合えるかと期待したが、急な下り、上りで鳥どころではなくなった。もう少しで駐車場というところで、キツツキのドラミングが聞こえる。10mほど先の木の上にアカゲラを発見。慌ててカメラをかまえるが、大きさ、頭頂の赤からオオアカゲラのような。枝被りのない位置に移動し、必死にシャッターを押す。薄暗いが何とか写真になる。

2019年1月奄美大島で亜種のオーストンオオアカゲラに出合ったが、オオアカゲラは初めてで大満足。来てよかった。

これ以外は駐車場のハシブトガラスと次の日上社でカワラヒワを見たぐらいであった。



大台ヶ原と奥大和  
一泊研修旅行初参加

増田 典男

緊急事態宣言下の大阪から奈良の里山へは行きにくくやっと10月から復帰し、今回のツアーに初めて参加しました。60歳の還暦を過ぎると仕事もできないし、急に遊びを見つけるのは難しいだろうと55歳の時に小中学校の同級生とハイキング会を作りました。今の体力とは比べられぬくらい元気があって奈良県をはじめ多くの高い山に登りました。大台ヶ原へは何度も行きましたし、疲れ知らずでピョンピョン跳ね飛んでいました。あれから20年、体力の衰えをしみじみ感じます。長期の自粛と喫煙で筋力、肺機能が低下しています。コロナになったら死ぬほど息が苦しいと驚かされてやっと禁煙に成功しましたが、まだまだ池の泥掃除や真砂土運びは私にはキツイのです。大台ヶ原駐車場の周りをウロつく予定でしたがそうもいかず、2番目のコースを選びましたがこれとて私には恐怖でした。幸い幼馴染のメンバーが膝の手術を目前に参加し、何かあったらアカンからと介助と称して楽ちんコースを歩けました。

夜の宴会は皆さん超久しぶり、乾杯のビールの旨いこと！涙目になりました。黙食は無理で大騒ぎではないですがそこそこ盛り上がりました。会長の「ならやま音頭」に拍手喝采。ワクチン2回接種は強いです。これ以上書くとお叱りを受けますので後にご想像にお任せします。

2日目は東吉野村の天誅組の墓や宇陀市の八咫鳥神社。「今は高市早苗ぐらいやけど昔は天皇陛下も奈良出身が多いし天誅組もえらいで」と奈良を褒め称えましたがようわかりません。

何がベスト3と思い出すとやはり第一位は車窓から見た吉野の紅葉、絶景でした。第二位は宿の風呂。大浴槽、露天風呂。第三位は宴会かな、24人は大所帯、昔は当たり前のこんな集まりも感染者激減 ワクチン接種のおかげです。番外は小島さんのクイズ大会、傑作でした。

アイドルと名所の誕生

「ならやま大地号」「ようこそモンキー」  
「四季の丘」

千載 輝重

昨年の「建築ワークショップ東大寺 2020」に出展参加する5つの大学の5名の学生に竹材の提供をしたのをきっかけに、学生の皆さんとの交流が始まり、当会の20周年の記念としてモニュメント制作の提案を受けました。学生さんたちの提案は、舞台を兼ねた憩いの場所、竪穴式住居のような隠れ家、土絵具を使った動植物たち、木工による小鳥たちなど、さまざまな提案をいただきました。

その後、里山の原風景にふさわしい場所とモノを念頭に、現地での確認やリモート会議を重ねて検討した結果、里山林の入り口にあたる学びの森に、子供たちを迎える「ウェルカムモニュメント」とならやま里山林に導く「機関車」を制作することが決まりました。

そして8月の「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！」イベントに向かって制作に取り掛かろうとする時に、第5波コロナ禍が襲来し、学生の皆さんの来訪が難しくなり、会員の手で継続して進めることとしました。8月のイベント自体も中止となりましたが、その後会員有志によって少しずつ制作が進められ、このほどようやく、学びの森に二つのアイドルが誕生しました。



そしてこのほど、春先に完成していた展望台と合わせて、会員から応募いただいた中から、

機関車は「ならやま大地号」、サルは「ようこそモンキー」、展望台は「四季の丘」と、とてもふさわしい愛称がつけられました。

10月24日に開催された朝日親と子の自然環境教室イベントでは、まず参加者の皆さんに「四季の丘」からの展望を満喫していただきました。そして稲刈り、自然観察、遊びの森での



自然とのふれあいの後、里山についてのお話は新しく生まれ変わった学びの森広場で行われ、初お目見えとなった「ならやま大地号」と「ようこそモンキー」(この時はまだ名前はありませんでしたが)に子供たちは大喜びで、保護者の皆さんを含めて参加者から大好評を得ました。

一方、従前から里山林に彩りを持たせたいとの思いから、できればこの構想を一体化させて、学びの森周辺にイベント広場とそれに隣接する紅葉の映える森を整備する「古都に広がる里山の彩り」プランを企画しました。この企画は第32回緑の環境プラン大賞に応募、10月に入選の通知を受け、これから本格的に取り組むこととしています。





## 私のアウトドアライフ

### 境 寛

私の物心ついたころには、家にピッケル、ザイルやヒッコリーの単板スキー等、山道具が転がっていました。そんな中で、初めて滋賀県マキノにスキーに出かけたのが小学5年生の時(S26年)でした。当時マキノスキー場には、大津と海津を結ぶ太湖汽船の「スキー船」が就航しており、船で仮眠して朝いちばんにスキーに出かけたのが懐かしい思い出です。このころからのスキーや山歩きが今に続いたこととなります。

大学卒業後は、高校の教員として50年間勤めましたが、高校の部活動に山岳部を看ることになりました。このころの山歩きは、学生たちの希望の山を歩くことが多く、北アルプスなどが中心になりました。ただ高校体育連盟登山部のお世話をしていましたので、競技登山にかかわることになりました。

登山で競技というのは、どんなことをするかと疑問に思われますが、国体やインターハイでの競技は、重い荷物を背負って目的地までの時間や、現在地の読図、そしてテント設営のような生活技術や天気図などをテストするなどで、優劣を決めていました。これらのことがスポーツとしての整合性にいまひとつ欠けるころがあるということで現在の国体では、山中を歩くことなく、フリークライミングが競技されるようになりました。ただ高校では登山の基礎を学ぶということで、現在も踏査(読図)、幕営などを中心にインターハイを行っております。このようなことで国体やインターハイで全国各地の山を歩かせていただきましたが、大阪国体での山岳競技や大阪・奈良でのインターハイでは競技役員としてお世話したことが強く印象に残っています。

この大阪インターハイが終わったときに、教員仲間とチベットニンチェンタングラの未踏峰

チズⅡ峰(岩峰6004m)に行こうと、大阪府高校生日中友好登山隊(大阪教職員山の会・大阪府山岳連盟主催)を編成、約1カ月の遠征に出かけました。登山隊としては未踏峰登山に成功(2回のアタックで10名が登頂)し、中国の高校生とも交流大成功に終わりました。しかし私は支援隊副隊長として参加登頂はかないませんでした。5500mの氷河上から仰いだチズⅡ峰の雪煙が目に焼き付いています。

一方で、私の子供たちが地域のボーイスカウトにお世話になっていましたので、ボーイスカウトをお手伝いすることになり、高校の登山部と二足の草鞋を履くことになりました。毎週末は、高校とボーイスカウトのキャンプに付き合うことになり、家事はほとんどすることがないので家内には申し訳ないことでした。

ボーイスカウトでは、4年に1回日本全国のスカウトが集まってキャンプを行うジャンボリーという集会があります。約4~5000人が集まる大キャンプで、見渡す限りテントが立ち並んでいるのは壮観です。ここでも奈良県のスカウト40名を引き連れて、蔵王や妙高・富士などに出かけました。また、韓国慶州と奈良市が姉妹都市でしたので、隊長として奈良市のボーイスカウトを引率、慶州での合同キャンプに参加したのですが、これが私の最初の海外旅行でもありました。高校の部活動から離れたころから、奈良・人と自然の会や黒髪山自然塾での時間が増えて現在に至りました。

これらの活動で、今でも思い出すのは、敦煌の砂漠やチベットで見た天の川は英語で言うミルキーウェイそのものでした。またスイスマッターホルンで見たエーデルワイス、礼文島のレブンアツモリソウ、カナダイエローナイフのオーロラ、ニンチェンタングラで見た青いけしの群落、槍ヶ岳でのブロッケン(ご来迎)、中国の黄山で見た山水画の世界どれも忘れ難い思い出です。しかしこうして自然に触れ合う中で出会った仲間が、私には何よりの宝物です。



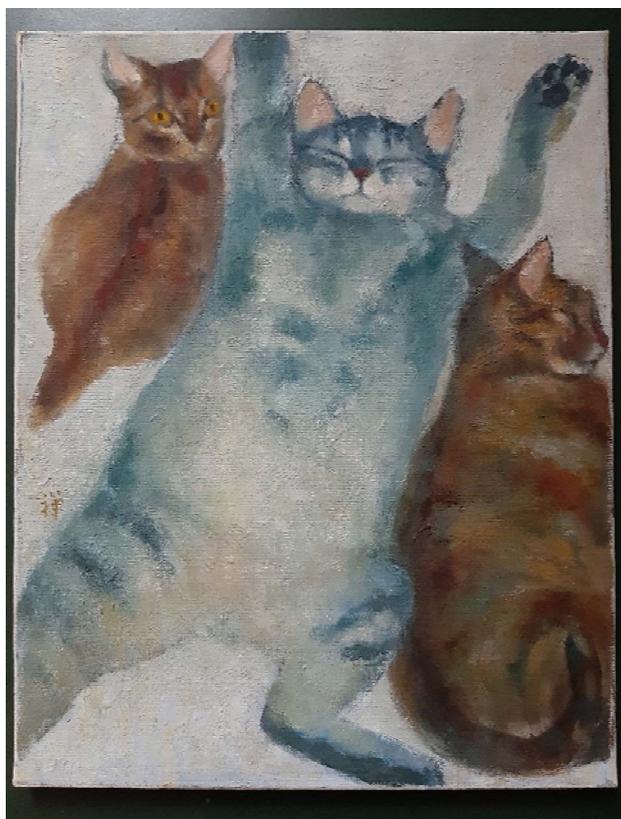
**Gallery** ならやま



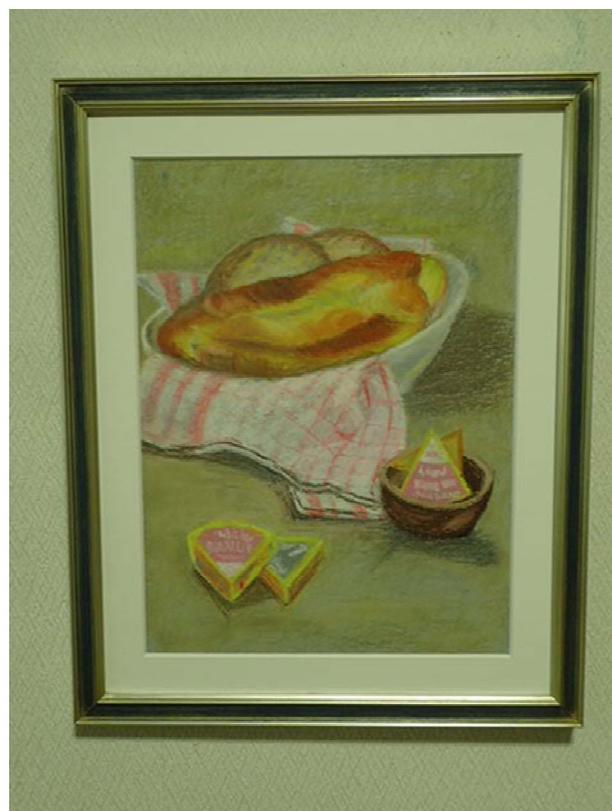
▲クラフト「サンタクロース・トナカイ」 鈴木 未一



▲陶芸「ねこ」 小島 武雄



▲油絵「ひるね」 高間 祥子



▲油絵「パンとチーズ」 有元 康人

ホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております

# 行事案内



12月 月例研修会のご案内

## 錦秋の矢田丘陵を散策しよう

新型コロナの感染拡大が落ち着いているとはいえ十分対策をとった上で、大和の矢田丘陵やたにいますくしたまひこじんじや付近を散策します。矢田坐久志玉比古神社、アジサイで有名な矢田寺、国見台展望台から大和平野を望み、松尾寺へのハイキングです。色鮮やかな紅葉を楽しみましょう！

松尾山は、大和郡山市と生駒郡との境に位置し、海拔315.4mでその中腹に松尾寺があります。松尾山真言宗補陀落山と号し、地元では「まつのおさん」と呼んでいる日本最古の厄除けの名刹で、2-3月の初午、二の午など厄除け開運を祈願する「まつのおさん」詣りの人々で賑わいます。

### 【実施要領】

1. 実施日：12月6日(月)
2. 集合：近鉄郡山駅東口 9時45分
3. 持ち物：弁当、飲み物、ハイキング靴、雨具、敷き物、ストック(あれば)
4. 雨天実施の有無：申し合わせ通り
5. 申込先：富井忠雄

行程：近鉄郡山駅前バス 10:10—横山口—矢田坐久志玉比古神社—矢田寺—松尾山・国見台展望台—松尾寺—松尾寺口バス—近鉄郡山駅(大和小泉駅) 15時30分頃、行程約8km  
 担当：有元・尾崎・戸田・富井



国見台展望台から大和平野

## ならやま・芋煮会のご案内

1. 日時：12月9日(木) 12時から  
雨天場合は16日(木)に順延
2. 場所：ならやまベースキャンプ  
通常通りお弁当を持参

今年も“芋煮会”の季節となりました。新型コロナは落ち着きつつありますが冬場の感染拡大が懸念されています。私たち一人ひとりの注意が肝要と思います。この状況下、今年の芋煮会も昨年同様に細やかに実施いたします。今年はJA愛媛でブランド化された“伊予美人”が加わりました。賄いの皆さんとエコファームが腕を振るって、ならやまの里芋を厳選した“特製芋煮”を味わっていただきます。



\*\*\*\*\*

### 1月ならやま活動&行事予告

- \*ならやま活動(木)
- 6日 初出式・10年継続会員記念植樹式
- \*18日(火) 三輪山登拝
- \*29日(土) 新春講演会&懇親会

### 会員動向(敬称略)

<入会者>

10月28日：村田 康晟

<退会者>

11月13日：寺田 正博

**2021年11月度 幹事会報告**

日時：10月26日(火) 14:00～17:00

**I 全体報告事項**

安全について：車に注意の看板設置

**II 会計、総務部より**

・会員動向：会員 159名 家族会員 18名

**III 活動・行事関係**

- ・11/4 佐保台小学校5年生脱穀作業
- ・12/18 北川先生講演会「畑を耕す魚類学者」
- ・1/6 初出式・10年継続会員表彰6名
- ・1/29 新春講演会 講師 徳地先生

**\*ならやまプロジェクト関係**

- ・学びの森周辺整備のうち水路整備、カエデほかの植樹は11月から取り組む
- ・10/28 全員で芋掘り
- ・11/4 東池の泥を有機肥料としての利用を検討するため一定量を隣の畑に移す
- ・花壇エリアを縮小する
- ・名札の裏への緊急時連絡先を明記することを再徹底する

**IV 企画、助成金事業案件**

- ・凶録集：12月に最終会議を行う
- ・記念誌：座談会は11/16に実施予定

**\*各種助成金、交付金事業**

- ・自走式刈り払い機の購入 追加承認される
- ・緑の環境プラン大賞入選：学びの森周辺整備

**V 喫緊、提案事項**

- ・モニュメント名称募集(猿・機関車・展望台)
- ・学びの森周辺、薪置場～苗床の水路は里山グループが管理する。

**VI 広報、関係**

- ・HPの管理担当は尾崎、田中

**VI 報告、連絡事項、その他**

- ・「歴史同好会」立ち上げ、1月三輪山登拝予定
- ・月例研修会：12/6 矢田丘陵
- ・自然教室：11/24 奈良公園観察会

次回幹事会 11月30日(火) 14:00～

以上



**<祝縄文遺跡世界文化遺産に登録>**

今年7月、北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録

されました。

縄文時代とは約1万6千年前から1万年を軽く超える期間「狩猟・採集」の生活をしながら、1カ所に定住するユニークな時代でした。世界最古級の土器である縄文土器を始め、大規模な貝塚、祭祀を行ったストーンサークル、集落跡や墓等の遺跡が残っています。

但し、西日本は約7300年前に九州南沖の鬼界カルデラで起きた巨大噴火等の影響で人口が減少してしまい、遺産の対象にはなっていません。

世界の他では「農耕・牧畜」を始めることでやっと定住ができるようになったのと大きく違います。

なぜ、定住できたのか。早くいえば、豊潤な土地と温暖な気候(現代より2℃ほど高かった)につきますが、そのような土地は世界には他にもあるはず、そこらを説明した話はちょっと探しても見つかりません。最盛期には20万人以上の人口で、「狩猟・採集」生活ではあり得ない人口密度だったそうで、突出した存在だったのかもしれない。



発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)

**表紙写真：緑陰広場の水路整備**

ベースキャンプ南側に隣接した緑陰広場にて、竹を編んで水路の土止め作業をしています。